



# エンカレッジ通信

# 1号

定期報告 2008年11月(通巻1号)

10月14日、沖縄市内小中学校で二学期がスタートしました。4月に新年度がスタートして、あっという間に一年の折り返し地点にきていました。

エンカレッジの新年度は通塾支援を継続した生徒2名とのスタートでした。夏休みをはさんだ現在、エンカレッジでお預かりしている生徒は、当初の2名を入れて“22名”の大所帯となりました。生徒募集の呼びかけに際し、沖縄市教育委員会・沖縄市社会福祉協議会・沖縄県母子寡婦福祉連合会・沖縄市PTA連合会に後援いただけたことで、保護者の方も安心してお問い合わせできたのではないのでしょうか。また、生徒募集のためのポスターを琉和印刷さんに無償で提供いただけたことで、沖縄市役所をはじめ各所へ設置、呼びかけと活動の周知を行うことができました。

そういった方々、また支援いただいている会員の皆様を支えられて、エンカレッジの児童生徒、また、私達エンカレッジ・スタッフも日々成長しています。就学援助を受ける児童生徒によりよい学びが提供できるよう、また、生徒達が将来に向かい自ら学んでいけるよう日々努力していきます。

## エンカレッジ生徒の内訳

エンカレッジでは、「通塾支援」と塾へ進む前の段階として学習意欲や基礎学力を身につけるための「学習支援・学力研修期間」があります。

エンカレッジ生徒数 全22名  
○ 通塾支援 ..... 6名  
○ 学力研修期間 ..... 16名  
(11月より通塾支援移行予定者3名)  
10月現在

エンカレッジにいる生徒の半数が中学3年生ですが、基礎でのつまづきを3年間放置していた子もいて、「すぐに塾へお願いする」には態度的・生活習慣的に困難な状況にある子もいます。

「教育」「学習」から、子ども達の健全育成を考えるエンカレッジにとって、この子達をどう伸ばしていくか、とても重要な課題で

## 就援児童の支援に新たな仲間

就学援助児童を支える輪に、賛助会員として新たに **沖縄トヨペット株式会社様、特別養護老人ホームおきなわ長寿苑様** が加わって下さいました。個人会員も新たに11名の方が加わって下さったほか、個人による寄付支援も4件いただきました。ご支援くださる皆様の存在に、私達エンカレッジスタッフも心強い限りです。

また、日本経済新聞、沖縄タイムスの取材に応じたところ、それぞれの紙面にてエンカレッジの活動を紹介して頂きました。二紙とも児童の学習を「福祉」という点から東京都や他NPOの活動を紹介しており、取材を受けた私達も現在の日本、沖縄が抱える問題について改めて考えることができました。

沖縄県の学力低下の問題が叫ばれるなかで、「学力の底上げ」という考えが広まってきています。そのなかで、私達NPOが持つ「本当に必要としている人達へ、直接支援を届ける窓口」としての使命が大きくなってきたと感じています。

就学援助を受ける児童生徒たちへ均等な学習の機会を届けられるよう、また、子ども達の健全育成に寄与できるよう努力していきたいと考えております。会員の皆様にご協力をお願いすることもあると思います。その際はどうぞご協力をお願いいたします。



↑ 新聞記事はHPの『活動報告』のページでみることができます。

### 支援の輪

支援の形	支援者数
企業会員	3
個人会員	16
個人寄付	4

### 企業会員の皆様へ

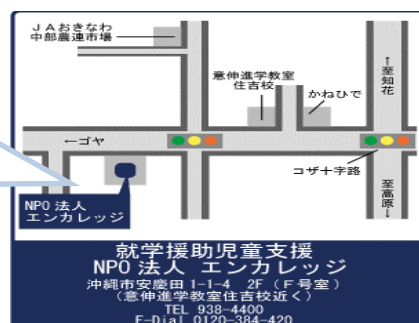
エンカレッジのHP内の『支援企業会員紹介』のページで、企業会員様のご紹介をさせていただいております。また、企業名をクリックすると企業HPへ飛ぶことができるようになっていますのでご覧になってください。

支援企業  
会員紹介

## エンカレッジ事務所を移転いたしました。

8月以降、支援を受ける生徒が増え、学力研修を行うスペースが手狭になったこと、また支援希望の相談・面談が増えたことから、急ではありましたが10月に事務所を移転いたしました。

新しい事務所は、旧事務所のななめ向かいの建物2階になります。質問や見学などで足をお運びの際には、お間違いないようお願い致します。



# エンカレッジ生の 成績報告!!

通塾支援中の子も、また、エンカレッジの事務所内で「学力研修」を受けている子も、期末テストの前からそわそわしていました。学力研修中の子も達には、不安げな子もいれば、「苦手なのからやろう」と意欲的な子もいて、スタッフ・学習支援のボランティアと共にテスト勉強に励みました。通塾支援中の子も達のなかには、塾の先生に「〇〇の範囲のプリントもらえますか」とすすんで学びにいった子もいたそうです。  
— そして、結果は、



## エンカレッジから学校席次 1 位が出ました!!

中学 2 年生の子です。理解するのが早く、通塾先での成績も上位にいます。県内でも難関とされている高校に通うために支援を希望したので、意欲の面でもエンカレッジトップかもしれません。

他にも席次では、

### 3 3 番 UP した子 (中 3 生 / 250 番台 → 210 番台)

これを機に志望校のランクを一つ上げました。「本当は行きたかったけど、自信がなかった」のだそう。

### 3 1 番 UP した子 (中 1 生 / 50 番台 → 20 番台)

「将来のために、なんとなく工業高校って思った。でも、今は沖縄高専の機械科に行きたい。そしたら、勉強も研究も両方出来るから。」

### 2 5 番 UP した子 (中 2 生 / 190 番台 → 160 番台)

「理科とか社会とか覚えるだけかもしれないけど、一人でやるのは難しかった。今は勉強する場所があるからいい。」

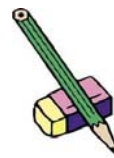
### 2 0 番 UP した子 (中 3 生 / 70 番台 → 50 番台)

「塾は同じ学校の子も多いけど、違う学校の子もいて雰囲気が違う。あんまり知らない子に質問されて『ありがとう』って言われた時は嬉しかった。」

### 2 0 番 UP した子 (中 3 生 / 190 番台 → 170 番台)

「将来のために苦手だけど英語を勉強したい。だから、英語科のある高校 (を志望)。でも、今は全部やって大学まで行きたいって思ってる。」

(紙面の都合上、20番以下の席次UP者は割愛させていただきます。)



## エンカレッジでは新たな取り組みとして、

# ☆ Future School ☆

…を始めます!!

## 実際に「体験」すること、「経験」した大人とふれあうこと。

※別紙参照

Future School は、子ども達が「働く大人」とふれあうことで「学びに入っていく」「学びを深めていく」ことを目的とした**体験型学習プログラム**です。

私達、大人が子ども達に勉強してほしいと願うのは、勉強することで培われる能力と知識が将来仕事をする際に必ず生きてくこと、仕事の内容を深め豊かにすることを「経験」として知っているからです。

しかし、子ども達は現在している勉強が、生活のなかでどのように生きてくのかをまだ知りません。勉強の必要性が理解できない子に対して、成績や進学で「脅し」たり、自主学習を「強要」してもかえって勉強嫌いにさせてしまう可能性があります。

実際に仕事をもち働いている**大人から「経験」を聞くこと、聞いたことを自分でも「体験」**することで、子ども達は「**学ぶこと」「勉強すること」の必要性を感じ、理解**することができます。

また、自分らしい課題の達成に向けて、そのつど調べ、活用・応用するなかで、「**自ら学ぶ姿勢**」を身につけていきます。

保護者が忙しく、休日等にもふれあったり、話をする機会が少ないという就学援助児童達の声から、子ども達に「大人と向きあう」体験が不足していると考え、プログラムの立ち上げに至りました。大人と向き合うことは、将来の自分のモデルとなる人を探すこと、将来の自分を思い描くことにつながっていきます。子ども達が自ら学ぶ目的探しを提供する場として、このプログラムに関しては就学援助児童以外の児童生徒も対象に取り組んでいく予定です。

